採血に伴い起こりうる合併症とご注意

採血は細心の注意を払って行います。基本的に安全で、合併症を起こすことは少なく、軽症なものが多いですが、まれに次のような症状が起こることがあります。その際は最善の処置を行います。

■止血困難・皮下血腫：ひかけっしゅ（青あざ）

採血後に血が止まりにくかったり青あざが生じたりすることがあります。
５分間圧迫して(押さえて)止血してください。血が止まりにくい方はお申し出ください。

■アレルギー

採血時の消毒薬やスタッフの手袋（ラテックス）などでかゆみ、発疹をはじめとするアレルギー症状が出ることがあります。アレルギーをお持ちの方はお申し出ください。

■神経損傷：しんけいそんしょう

採血後も手指へ拡がる痛み、しびれなどが持続することがあります。
約１万～10万回の採血に１回程度起こる合併症とされています。痛み、しびれが続く場合はお申し出ください。

■血管迷走神経反応：けっかんめいそうしんけいはんのう

採血時や採血前後に、神経が興奮し急激に血圧が下がることによって、めまい、気分不良、意識消失などをひきおこすことがあります。
気分の悪くなったことがある方はお申し出ください。

採血後のシビレや今までにない痛みを感じられた患者様へ

私たちは日々、安全で確実な採血を実施しておりますが、まれに採血時または採血後でもシビレや今までに無い強い痛みを感じられる患者様がおられます。このような場合、採血に伴う神経損傷が考えられ、正しい採血を行った場合でも採血に伴う合併症として存在し、注射針が神経に触れたことが原因です。一般的には１万回から１０万回の採血に１回は少なくとも発生する合併症とされ、今まで何回も採血されている患者様でも偶然今回初めてシビレや強い痛みを経験されることがあります。

当院では採血室にて、年間約18万回（1ヶ月約１万５千回）採血を実施していますが、やはりこのような合併症を訴えられる患者様がおられます。多くの場合、細い神経が損傷されるのみで、しばらくすれば間もなく軽快しますが、シビレ・痛みが強い場合や続く場合には、当院整形外科を受診していただくことになりますので、採血室または受診科主治医までご連絡下さい。

また採血による神経損傷ではなくても患者様の病気や投薬などによっても強い痛みを感じることがありますので遠慮なく受診時にお尋ね下さい。

＊採血による神経損傷などの合併症にかかる費用（診察、検査、投薬）は、通常の治療費がかかります。

近畿大学病院中央臨床検査部・安全管理センター